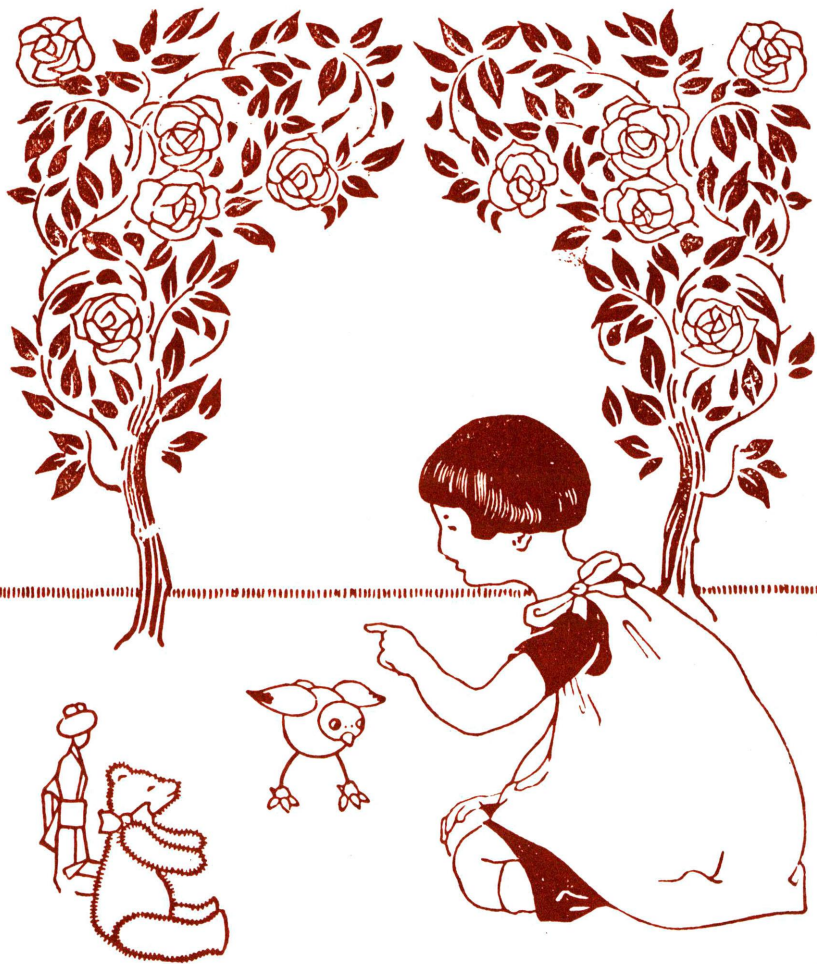


# 育教の兒幼

號二第 號月二 卷九十二第



內校學範師等高子女京東  
會協園稚幼市日

# 生徒募集

本科 生 四十名

研究科 生 若干名

○願書受付 三月三十一日まで

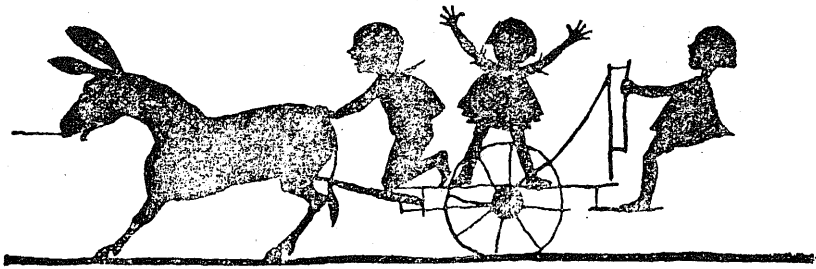
○規則書は貳錢切手封入申込まれよ

## 玉成保母養成所

所長 ソフアヤ アラベラ アルウキン

東京市外高井戸町中高井戸一三三





育教の兒幼 輯編會協園稚幼本日

會長 東京女子高等師範學校長 吉岡 郷甫  
 主幹 東京女子高等師範學校教授 堀 七 藏  
 附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員ダラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ離出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルベシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時總會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
  - 一、幼児教育ニ關スル研究及ビ調査
  - 一、幼児教育ニ關スル講演會及ビ講習會ノ開催

- 一、雜誌發行(毎月一回)
  - 一、幼児教育ニ關スル圖書刊行
  - 一、保甲就職及招聘ニ關スル仲介
  - 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 會長 一名 會務ヲ總理ス
  - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
  - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
  - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ズ
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應ジ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席員會ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニテラザラシテ變更スルコトヲ得ズ



號二第 育教の兒幼 卷九十二第

—(次 目)—

口 繪	お雛様				
私の視察したる米國の幼稚園教育(五)	堀	七	藏	二	
子供の遊びに關する材料の變化について	三	浦	ひろ	九	
劇といふ名を聞いて	長	尾	豊	四	
こはい動物といやな動物	東京女子高等師範學校附屬幼稚園	一	六		
或る座談會	小	石	三	六	
金港幼稚園の此の頃	石	野	孝	三	
自然物利用の雛祭に就て	膳	眞	規	子	三
三月の幼兒生活	卜	部	た	み	六
幼兒に聞かせる話	一	保	姆	四	
遊戯 雛まつり	土	川	五	郎	四
幼稚園に於ける觀察(一)	堀	七	藏	四	
雜 錄					五

# 幼児の手技研究会

- 一、幼児及小學校低學年の手技教育の完成を目標としての研究
- 一、資料は本會独自のものと及び全國各幼稚園から提供になつた結構なものをとし、紹介す。
- 一、毎月一回研究製作會を開催し、一は幼稚園に毎月新しい手技の資料を供給し又一は保姆先生に手技手藝の趣味を養ひ器用を修練せしめんとなす
- 一、遠方の方及び出席しがたの方の爲に通信研究部を設け、毎月會の資料を製作して見本として提供す。
- 一、會費毎月六十錢(出席者)通信部は別に左記小包料を要す。
- 一、送料、市内六錢 内地十二錢 臺灣樺太三十錢 滿洲四十五錢 外國小包料
- 一、通信研究部會員は右毎月會費及送料を三ヶ月六ヶ月一ヶ年等にまとめて送附のこと(振替、小爲換)但し送金は各園の都合のときにてよろし、ハガキ御申込次第毎月會の資料送附す、中途御退會の場合にはハガキ御一報有之度

## 二月會プログラム

- (1) お蜜柑の觀察手技(塗繪貼繪)
- (2) お雛祭二種
- (3) お誕生袋(クレープペーパー製)  
幼兒のお誕生祝に皆で折紙や色々のものを作つて此のきれいな袋に入れてあげる。
- (4) 鯛つり  
簡單に出來實に面白い手技弄具
- (5) 縫取二種  
以上

御大典紀念 折紙帖 頒布  
賜 照宮殿下台覽

最上の紀念品で又是非必要な參考書であります、百幾十種の折方が始めての人にもよく解するやうに手引折方が貼込んであります、非常に重寶であります、立派な帖でございます。

御入用はハガキにて御申込のこと、急ぐわけには参りませんがいつでもお申込順に出來たそばからお送り申し上げます。

價格 特上製 全一冊 金七圓五十錢のと拾貳圓(獻上型大判)のと二種(包裝料小包料は別に申受く)

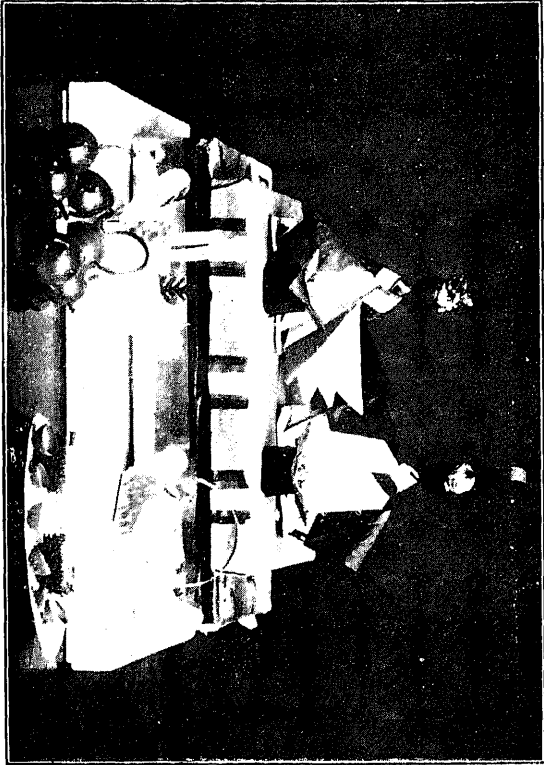
昭和四年一月

東京市牛込區納戸町六番地  
東洋幼稚園牛込分園内

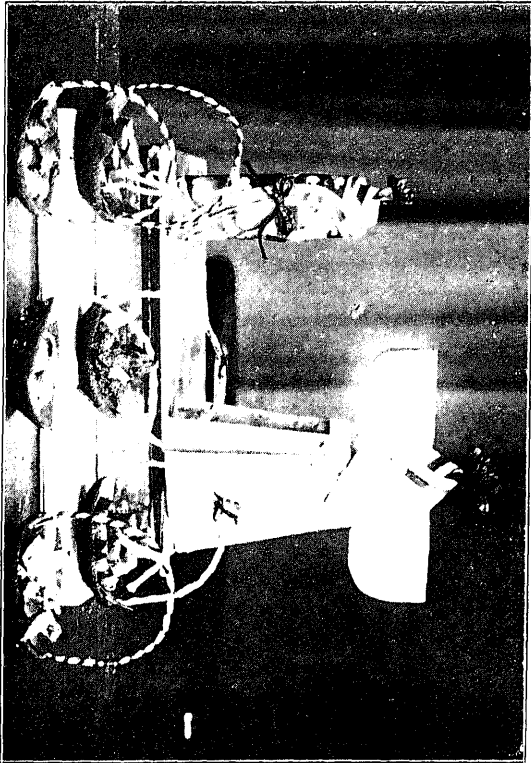
幼兒の手技研究会  
久門嘉祐

東京六六五八〇番

(どちらでも振替がよろしい)

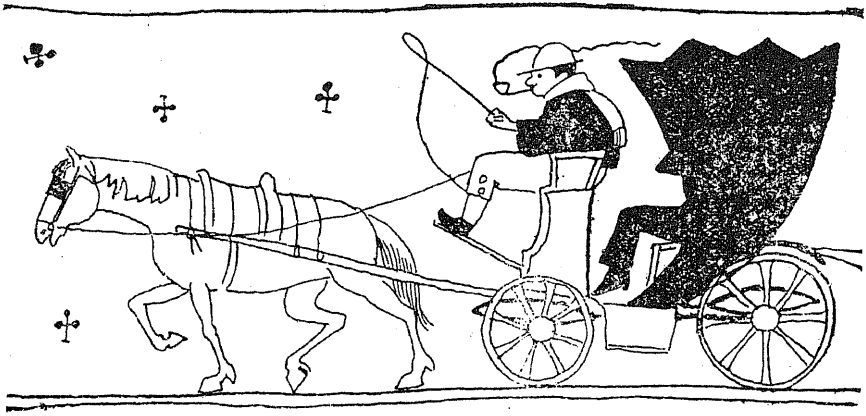


と 雛 様 (一)



と 雛 様 (二)





號二第 育教の兒幼 卷九十二第

月二年四和昭

一、教育で家庭教育位重要なものはありません。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。

一、家庭教育の短を補ひ幼児の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園保育であります。幼稚園保育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。

一、幼児の教育は本邦唯一の幼稚園保育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。

一、幼児の教育は幼児の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園保育の進歩發展を期する大抱負をもつて産れたものであります。

# 私の視察したる米國の幼稚園教育 (五)

二

堀 七 藏

一、

ニューヨーク市の百三十五番町にニューヨーク州立師範大學があつてそこに附屬小學校並に幼稚園があります。師範大學の學生が實地授業の練習をする所でもあります。師範大學の學生が少いのと、コースがまら／＼でありますから練習する學生も多くありません爲であります。我が國の附屬小學校の如く學級數が多くある譯ではありません。また一學級に配當せられる練習も少いのであります。それでこの幼稚園は矢張二保育室があるだけでありますから小學校に織込まれたものであります。幼稚園に入園して小學校の方へ進んで行く譯でありますから、近頃アメリカで盛に研究せられてゐる幼稚園と小學校低學年と融合して所謂低學年教育を施すには至極便宜に出來てゐるやうであります。

一寸枝道に入るやうであります。アメリカでは義務教育が八ヶ年であり、之を延長することは容易ではありませんし、その必要もないが、教育を低學年に於て延長することが専ら講究せられてゐる様であります。滿六歳までの教育を全く家庭に任せきりにして置いて、急に小學校入學から義務教育を施すこ

とは面白くない。アメリカの家庭では次第に家庭教育を施すことが出来ないやうになりつゝあるのであるから、入學前の幼児を如何に教育するか。それを小學校の教育と如何に關係し連絡し融合するかは非常に重要な問題となる譯であります。我が國の小學校に於ては「幼稚園教育を受けたものは小學校第二學年のことを知つてゐて困るから成るべく幼稚園で小學校の教科を教へて貰ひたくない。假名も教へてあつては困るとか。數計算が出来ては困るとか小學校でやる唱歌を幼稚園で教へて呉れては困る。小學校入學後やることがなくなるから困るとか、小學校に入學してから不注意になつて學級教授上困る」といふやうな理由で、小學校の方から幼稚園教育を排斥する風があります。また幼稚園でも何か教へないと家庭で喜ばないから、どうしても小學校で學習することを教へて得意になるといふ風もあります。それで幼稚園と小學校とが併置してある小學校で既に幼稚園教育を喜ばないといふ有様であります。これは大に考量すべきものであります。我が國で義務教育年限を七年八年に延長することが勿論肝要でありませうが、また義務教育年限を六歳以下に延長することも大に考量すべきことであります。勿論現在の第一學年の課程を悉く満五歳の兒童に課するといふ單純な方法で義務教育年限の延長は出来ませんが、第一學年の課程中にも満五歳の時代に學習し得る事柄が少くありませんし、また第一二學年の教育を現在の如き劃一な教授形式に當嵌めた仕方をせねばならぬことは毛頭ないのでありますから、もつと低學年教育の内容を研究して幼稚園の一部を義務年限に加へる工夫が我が國の現状として誠に大切

なことであると思はれます。それが爲には幼稚園と低學年教育との統合的研究が非常に肝要で、現在の如く小學校で幼稚園を排斥したり、幼稚園教育で幼兒の發育不相當なる知識技能を注入し傳授することが如きことでは眞に我が國の國民教育の進歩を期することが出来ないと思はれます。アメリカに於ける幼稚園の義務教育化、小學校との融合統一運動は我國の教育に於ても大に講究する必要があると思つてニューヨーク州立師範學校附屬校園を參觀したのであります。

## 二

この幼稚園は幼少な組に二十七人の幼兒がゐて保姆が一人。四歳半と五歳半とが一緒になつてゐる組であります。普通の教室を保育室にしただけのもので、特別な設備がありませんが、勿論小學校の教室の様ではありませんが、移動式の卓子と腰掛があるだけです。アメリカの國旗もあり、人形も多くあり、また動物飼育の鉢も窓際にあります。またピアノもあり手工机もあります。一度私が參觀したときには室内で至極簡単なスキップをしてゐました。ピアノで奏する唱歌の簡單なる調子と拍子とに合せて遊戯してゐます。遊戯といへは何か動作でもしてゐるやうに思はれますが、只歩むだけのものでもあります。リズムカルな動作をするのが目的であります。それも身體の發育を促進するための遊戯であります。踊や仕舞を教へることを目的とするやうな、我が國の幼稚園の遊戯とは全然性質が異つてゐるのであります。いろ／＼の動作をさせて身體の發達を促すものであります。その踊そのもの、スキップそ

のものを記憶させるのが目的でないのであります。我が國幼稚園の遊戯が兎角技巧的になり體育的價値が少く、見世物的な仕舞や童謡ダンス的のものが多くことは寒心の至りであります。幼兒の身體の發育、筋肉の發達等をもつとよく講究して幼兒の發達を促進するに價値多き遊戯が出来、またそれが幼稚園に行はれねばならぬと痛切に考へられたのであります。實はこの時使用してゐた唱歌集を求め積りでありましたが、間もなくニューヨークからワシントンの方へ旅行したのでその儘となりました。しかしこの州立師範大學附屬幼稚園では次の如き書籍を使用してゐました。この方面を御研究なさる方には参考ともなりませうから書名だけなりと申し上げます。

*Child life in music*

*A collection of plays, Dances, and games for the home, Primary school and Kindergarten. By Francis M.*

*Arnold. Director of Music,*

*National Kindergarten college.*

三

大きな幼兒の組を參觀すると矢張り普通教室か保育室となつてゐます。實際のところには硝子瓶に芽を出した支那水仙の如きものが數個あります。アメリカの室内は暖く晝夜で温度の差が少いから植物の芽を出してゐるものがあり金魚などがよく生きてゐるのは感心であります。金魚の本場である我が國の

幼稚園や小學校で冬金魚が教室で生きてゐるものを見ることが出來ずして、アメリカの幼稚園などで金魚を見るのは誠に不思議なことでありませう。これは金魚鉢の溫度に大差がないことも一つであります。また金魚を飼育する精神にも相異があるからであります。我が國で金魚を飼ふのは觀賞するのであるから澤山の金魚を小さな硝子鉢に飼育するし、硝子鉢は多少汚れると直に掃除して折角出來かけた藻類を取除くのであります。水が汚れたといつて直ぐに取かへるといふ有様で金魚を眞に飼育するのではないのであります。金魚を觀賞の具に供するので、金魚の生命を犠牲にする譯であります。アメリカなどでは勿論金魚を賞するのであるが、長く飼育することを主とするから金魚を入れて置くにも一尾か二尾。出來るだけ水を取かへずに自然に生ずる水中の微生物を金魚の餌となすから、永く生きてゐるのであります。或る學校などでは一ヶ年間も水槽を蓋して置いてその中の水中に生ずるいろ／＼の微生物を研究する所がある位であります。尤も是等の動物の飼育や植物の栽培は毎日生徒に當番をこしらへて置いて世話させるのであります。我が國の小學校幼稚園の如く一旦生けた花の水を一週間も取替へぬとか、鉢物に五六日も全く水を與へぬといふが如きことをいたしません。毎日を與ふべきものは水を與へ、日光に當てねばならぬものは日當りの所に出し、日蔭に置くべきものは直射日光を當てないといふ風に、植物でも動物でもその本性を十分に發揮させるのであります。これは單に動物飼育や植物の栽培に限つたことではなく教育に於てもその精神が十分に發揮せられてゐます。我が國の教育には盆栽的な所が甚

だ多く、無理に枝を曲げたり葉に細工したりして、曲がりくねつたもの不自然な發達を望む風があります。が、アメリカの教育にはかゝる無理がないのであります。殊に幼稚園教育では自然的な幼児の身心の發育を助長する點に努力してゐるやうであります。幼稚園時代から出來もせぬ技巧に富んだ遊技を強ひて幼児を萎縮させたり、理解出來ぬ知識を注入して得意になつてゐるやうなことは微塵もありません。しかし幼児が必要に迫られ幼児の生活から必然に要求することは不知不識提出して何時とはなしに修得させるといふ方針であります。それにこのニューヨーク州立師範大學の附屬幼稚園ではアルファベットを遊戲的に教へてゐます。幼児は一月で丁度六歳半でありますから我が國の小學校一年生に相當するものもあり、幼稚園の大きな組に相當するのでありますが、アルファベットを一つづつ書いたカードを床上に置いて圓陣をつくつた幼児が競争的に拾つて綴字練習をするのであります。床にまいてあるアルファベットを教師の合圖に應じて拾ふもので幼児は一生懸命であります。あまり面白くないアルファベットを記憶することも、またいろ／＼の綴字も面白い遊戯と仕組まれて不知不識の間に修得するのであります。我國小學校でも一年の兒童に片假名や平假名、また單語などを教授するにこの式の工夫をなせば至極容易に面白く、また幼稚園時代から特別な無理もなく學習が出来るのであります。幼稚園で數字を教へる是非を論じたり、文字を教授する時期を空論する必要があるありません。幼児が面白く必要に應じて修得するならば満五歳からでも四歳からでも一向差支がなく無理もありません。教へるのではなく、遊び

つゝ自然に習ふのでありますから決して負擔過重に陥るが如き弊はないのであります。我が國では文字を教へるとか教へぬとか論議しながら幼児には全く理解出來ぬ六ヶしい話をしたり死んだ知識の注入するが如き幼稚園保育が行はれてゐることは實に寒心の外ありません。モット幼児の生活幼児の心身の發達程度に即した保育が行はねばなりません。これは當時ニューヨーク州立師範大學の附屬幼稚園を參觀しつゝ感じた一端でありますから幾分割引して考へばなりません。しかし今日とても或る場合には矢張り幼稚園保育について大いに考へねばならぬと思はれますので當時の感想を卒直に述べた譯であります。



# 子供の遊びに關する材料の變化について

三 浦 ひ ろ

遊ぶ事が若し子供の全生命だといふ事が認めら

れるとするならば其の子供の生命を指導し育て、  
の材料として用ひられる程度のもと思ひます。

ゆく教育者は之に全生命を打ち込んで研究もし精  
進もしなければならぬものだと思ひます。  
決して良い加減のところは停止して安心すべき管  
ではないと思ひます。

可愛い、駒鳥

胸毛をふくらしして小鳥の囀る時。

かういふ前提の下に最も子供に忠實な教師が一  
つの材料に面接した場合にとるであらう態度につ  
いて考へて見たいと思ひます。

小さい頭をか上げて物思ふらしい様子を見せ  
る時、心の底からのあるあどけなさを感じさ  
せられます。子供達の遊びを見て居た時に相  
等しい思ひを起す事があります。

方 法

1、一小節から四小節迄。

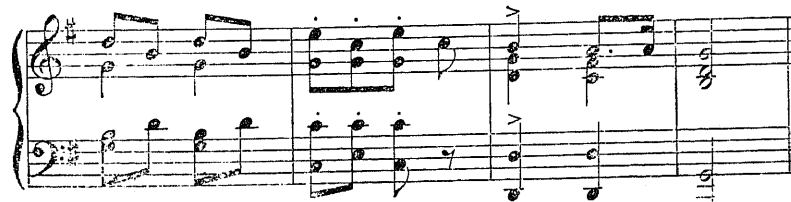
念の爲に材料を左に先づ擧げて然る後に説明に  
及び度いと思ひます。

臂を横に伸し軽く上下に動しながら自由の方

題はかはい、駒鳥、幼児或は尋常の一・二年頃

向にスプリングを行ふ。其の場でジャムプを

か は い > 駒 鳥



行つてもよい。但しいづれにしても四小節目の最後には佇む。それはとんで來た駒鳥が木に止つたのである。

2、五小節から六小節迄。

頭を左右にむけてうなづく（左右二回）小さい鳥がよく何かを語り合つてゐるやうに頭をちよいと動す事があるがさういつた様子を表すのである。

3、七小節から八小節迄。

兩手を後に伸して羽ばたきをするやうに上下に動す。

4、九小節から十二小節迄。

五小節から八小節迄の動作を繰り返して行へばよいのである。

餘り強くないが跳躍を交へた遊びで

ある爲に全身的の活動を要求してゐます。頭、上肢、下肢の動作を伴つてゐる點に於いてたしかに全身の運動であるといへませう。

しかし右の材料は動作が極めて簡單でありますから、方法をよく讀めば教師の練習なしにでも子供にさせる事は出来る程のものであります。一見非常に容易な材料でありますが、考へてみればその容易なところが案外むつかしくなる事もあります。我々がこの材料に接した場合先づ考へなければならぬのは之を身體的に見た部分、即ち頭、上肢、下肢の動作を伴つてしかも跳躍を交へた遊戯であるといふ點ともう一つは之を精神的面から考へて、子供の自然物に對する細い觀察と至純な共鳴心をやしなふ點であらうと思ひます。ですからこの材料を若し純粹な體育的方面の材料とするか。それとも子供の全生活としての遊戯といふ意味で取扱ふかによつて教授に對してかな

り深い考慮を拂はなければならぬ事になつて來ると思ひます。

今、後の目的によつて考へを進めてみたいと思ひます。即ち子供の生活としての材料とした場合であります。さうしますとこの材料の要求してゐる點は精神的方面と身體的方面の兩方で何れにも甲乙はありません。

かうした場合の教授はやはり主觀から這つた方が自然でありかつ苦勞なしに求める所を充してゆけるのではありますまいか。

でこの方法をとるとしますと、先づ駒鳥の觀察といふ事が考へられなければならぬのでありまして、主觀から出發してその直觀したところを子供が自らの動作に表すとふ事になつてゆくのであります。この方法でゆかう爲にはこの材料は誠に困つた材料なのであります。第一日本で駒鳥などを觀察し得るのは極特殊の場合に限られてゐる

ので雀やからすのやうにやたらに駒鳥は居りません。ですからこの材料を全然子供の直観にまかせるといふ事は到底不可能な事になつて來ります。

何とかして進路を轉じなければどつちへも行けぬ事になりませう。といつてこんな場合にすぐに教師の模倣から這入つて教師が文學によつて了解した所をそのまま子供の動作にさせてしまつては本當に冷淡な教師とならなければなりません。何故なら子供の爲に要求せられた大切な二つの目的の一つをふみにじつた事になるのですから。

一體よく／＼觀ますとこの材料は決して駒鳥を直觀させて駒鳥の知識を正確にさせるのでもありませんし、駒鳥の動作を知らせるのでもなくて、實は駒鳥は供物で目的にあるのであります。ですから本當に子供の爲に親切な教師であるならば、この子供に對する大きい要求をいづれも省略する事なしにみたさせる爲にこゝで研究をし工夫をめ

ぐらすだらうと思ひます。しかもその事はさう大して困難な事ではないのであります、材料を雀にとつても決して差支へはないのであります。何故に駒鳥の材料を雀にかへたかといふ點に對して教師が十分に信念を有してゐるならば子供に對しての要求は些の變化もしてゐない事になるのでありますから、結果として表れるものは又駒鳥であつても雀であつてもすこしのくるひもないわけであります。

x x x

かうして便宜上駒鳥が雀にかはりました。しかしこれは單なる便宜ではなくて教へるものゝ本當に周到な心遣りの賜なのであります。先づこれでは子供の直観はかなり自由な立場に置かれた事になります。

さて子供にいよ／＼直觀させる事になるのでありますが、決してあの駒鳥の解説にあつた動作のやうに

する爲に何もこま／＼しい注文をする必要はないと思ひます。雀が何をしてゐたかといふ間で澤山の結果にかなりの相異があらうと思ひますがそれで結構だと思ひます。その觀察した動作を曲に合はしてさせてみるのです。其前にスキップとかギヤロップとかマーチ、かけあしといつたやうに子供はかなり曲と共に動いてゐるものとすれば、極めてリズムミカルであるべき子供は十分に其動作を曲と共にそこに演出するだらうと思ひます。しかもそれは何等束縛のない子供自身のものとして。さうしてゐる所へ更に教師の適當な發問が加へられるならば子供は更に異つた動作を雀の上に見出して來るでせう。

勿論子供各自によつて各々異つた動作を持つて居る筈で決して一言した動作を要求するわけにはゆかぬと思ひます。しかし其の異つたところに非

常な妙味があるものであると思ひますし子供の自然物に對する觀察を指導する道を見出す事も出來ようかと思ひます。

かうして幾度かの觀察の後に少くとも子供は變化ある二つ以上の雀の動作を體得する事になつて參ります。

そして同時に二つの動作を行ふ事になつてはじめてあの駒鳥の動作にある二つの區分と同様な區分に於いてその動作を二つつなぎ合はせる約束を結べばそこに曲の變化に伴ふ、動作の變化を持つ事が出来る事になるのであります。

そして「かはい、駒鳥」が何時の間にか「小さい雀」に變化してしまつてゐます。そして兒童各自が皆めい／＼に自分の動作を試みることになり

# 劇といふ名を聞いて

長尾 豊

一  
兒童の劇殊に幼兒の劇演出を「劇」と呼ぶ時には、それ相當の心がまへがなくてはならぬ。何となれば今まで小學校幼稚園にほんたうの兒童劇が行はれなかつたのは、此の「劇」といふ一字に累されてゐたところが多かつたと思はれる。なるほど

兒童の劇も「劇」であり、又或人が言つたやうに、兒童畫と呼ばれる兒童の畫もならば、兒童詩と唱へられる兒童の詩もまた詩であるから、兒童劇といふ兒童の書いた劇、演ずる劇を同様に「劇」と言つても一向に差支ない。そこに何の障りがあらうといふ議論は一應道理らしく聞えるが、よく考へ

て見ると、理屈はさうでも事實は大いに違ふ。同じく畫と呼ばれても畫家の畫と兒童の畫とは違ひ、詩と唱へられても詩人の詩と兒童の詩とは違ふ。同じく劇と言つても、劇壇の劇と兒童の劇とは氷炭相容れぬものであるかも知れない。

兒童の藝術は從らに専門家の教養を注ぎこむこともなければ、又た單なる遊戯でもない。その生活の充足であるとか、缺けたるを補ふ情意の教育であるとか言はれてゐるが、併し、實際行はれてゐるところを見ると、多くは心身の圓滿な發達を遂げしむるものでなくて、或部分を至つて偏頗に伸長させる事と或り、その結果一時、兒童

を釣合の取れぬやうにすると、親しく童謡や児童畫を指導して來た人でさへひそかに告白するところである。

これは指導が知らず／＼児童畫を餘りに「畫」として、童謡詩を餘りに詩として、大人の詩として考へ過ぎるからではなからうか。児童の劇となると、一層此の感が深い。

## 二

近來一般に藝術に對する恩慕愛好の念が高められたとは言へ、繪畫や詩歌に對して社會全體が正しい理解をもつてゐるとは考へられない。特に劇に關してはなほ幾多の偏見臆斷を抱いてゐる人が多い。さういふ人達は教育家の中にも決して少なくはなからうと思ふ。假に劇を理解してゐる教育家があつたとしても、周囲の偏見臆斷を抱く人々に向ひ、児童の劇の何たるかを示して、その惑ひを解き、疑ひを明らかにしなければ、おそらく何

人をも首背させる事はかたいてであらう。此の場合眞向正面から藝術論などを振翳してゆくはもとより、戯曲本能や情操陶冶を並べ立てたところで始まらない。ましてその教育家に眞の理解が缺け、劇に對する考が足りなかつたり、又は全然あやまつてゐたとしたらば、その人の劇の指導は、石を抱いて淵にのぞみ、薪を負つて火の中に飛込むやうなものである。

児童の劇についてもすでにいろ／＼論じられたが、要するにそれはいろ／＼論じられてゐるといふだけで、一遍通り眼を通し、適宜に切り盛りして並べて見たところで、何の役にも立たない。たとへば児童が棒を一本持てばそれが槍にもなれば鐵砲にもなり、時としては又魔法の杖にもなる、児童の想像を抑壓するなといふ事は、少なくとも理論の上だけでも児童の劇を扱ふ者の常識と成つてゐる。然るにその實演を見ると、児童の想像とは

全然没交渉な衣裳背景をもつて如何にも劇らしく見せようと努力してゐる痕が見える。理想と現實や議論と實際といふものはえて違ふものださうだが、これは又餘りに違ひすぎる。然らばどうして又そんなに實際が理論と背馳し、理論を無視するのと言へば、時に背景衣裳を飾つて、これを公表しても宜しからうといふぐらゐの、至つて淺薄な考から出發してゐるからである。つまり理論がほんたうに分つて居ない事になる。

一遍でも兒童の生活を諦視した事のある者ならば、この位のことは分らなければ成らぬ筈である。分つてゐてその通りに出來ず、又始めからさうしようとも考へないのは、まだほんたうに分つて居ない證據である。兒童の劇の理論を讀み、又その實際にたづさはつてゐたところで、眼前見易いのやうな事實が分らず、机上一片の理屈として直ちに押片づけてしまへるやうでは、情なくもあれ

ば又まことに歎かはしくもある。このやうな顯著な事實の見えない筈はないのであるが、眼を蔽つて見ようとしないと同じ結果に立到るのは、全く「劇」の一字に眩惑されてゐるからだと思ふ。

### 三

劇といふ名を聞いただけで早くも大袈裟なものと思ひ、幕を釣ると考へ、衣裳背景を欲しがり、唱歌ダンスを入れて、舞台照明もなければならぬと言ふのは、ほんたうの兒童の劇演出をまだ一遍も見た事のない人達である。其の人達の眼には劇場の舞台がチラつき、耳は観客からの拍手喝采に飢えてゐる。これは兒童の劇も「劇」であるといふ所から生じた誤解、それから起つた大きな間ちがひであると思ふ。

兒童の劇も「劇」である、否、劇でなければならぬといふ卑しい努力を言ふのではなくて、兒童とい



とつてある劇的なもの、活動的な假想的な、眞に劇的なものでなければならぬと言ふのである。それでなければ劇は兒童に取つて空しいひとひらの名に過ぎなう。

劇的でないものを強ひて劇らしく見せようとする所に、一切の無理が生ずる。そしてその一切の無理をもつて、本來劇的である兒童にのぞみ、兒童を縛つてこれを驅使しようとする。教育家が劇を解せずして演出に手を着けるのは、やがて兒童を酷遇し虐待する事になる。これにくらべれば劇らしいもの、脚本のやうなものを書いて、ひとり悦に入つてゐる方がどれ程罪が軽いかならぬ。

ほんたうに表現の満足がなく、演ずることの喜びが缺けてゐる時、兒童が華美は衣裳、立派な舞臺をもちたがり、見られる事を欲するのは決して兒童の罪ではない。その事はすでに兒童劇の議論で説かれてゐる筈である。屋上屋を架する兒童劇

の議論が不要としても、たとへその一断片でも机上の空論でなくなるまで、讀返され、ほんたうに理解されないうちは、迂濶に看過しがたいものと思ふ。

~~~~~  
(一三頁よりつゞく)

作者に又は振付者に忠實であるといふ事は本當にその演出者として美しい態度だと思ひます。しかし必ずしも動作を寸分違はずに演出する事以外に忠實であり得ないと心配する必要はないと思ひます。

最も肝心なのは作者又は振付者の希求の本體を深く見詰めて、それに忠實である事でありませう。そして其の爲に時に動作に多少の變化を伴ふ事は許されるべきだと思ひます。

# こはい動物といやな動物

東京女子高等師範學校附屬幼稚園

—

昭和三年十月末當幼稚園幼兒につき

「あなたのこはい動物は何ですか」

「あなたのいやな動物は何ですか」

といふ問を出して調査した結果であります。勿論幼兒一人一人について尋ねたのでありますし、動物といふ言葉については解説したのでありません。また小さな組の幼兒などには「こはい」と「いやな」との區別が明白でないものがあつたことも事實であります。いろ／＼なことが含まれてゐますが、茲にその結果についての統計を發表いたします。

こはい動物

| 動物名 | 男 |    | 計  | 女  |    | 計  | 合計 | 小  | 大  |
|-----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|
|     | 小 | 大  |    | 小  | 大  |    |    |    |    |
| 獅子  | 九 | 一四 | 二三 | 一〇 | 一五 | 二五 | 四八 | 一九 | 二九 |

小 馬 狐 犬 鼠 猿 蛇 豹 熊 鱈 ゴ 象 猪 狼 虎  
 リ  
 羊 ラ

一 〇 〇 一 〇 二 三 〇 一 一 〇 一 二 六 七

〇 〇 〇 〇 一 〇 〇 一 一 一 二 三 三 三 三

一 〇 〇 一 一 二 三 一 二 二 二 四 五 九 〇

〇 一 二 一 〇 〇 四 〇 一 〇 〇 一 三 四 八

〇 〇 〇 〇 〇 一 一 一 二 二 一 〇 三 三 四

〇 一 二 一 〇 一 五 一 三 二 一 一 六 七 二

一九 一 一 二 二 一 三 八 二 五 四 三 五 一 一 二 三

一 一 二 二 〇 二 七 〇 二 一 〇 二 五 〇 五

〇 〇 〇 〇 一 一 一 二 三 三 三 三 六 六 七

この表から分るが、「小」は年齢の小なる幼児で、昨年四月から幼稚園に入った幼児であります。而して、年齢の大なる幼児で、一昨年四月幼稚園に入った幼児であります。而して、

一男 こはい動物の種類 二十種

| 幼児数 | ナ | 兄 | 泥 | 地 | 雷 | あ | 一 | 鬼 | 天 | 鷺 | 猫 |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|     | シ | サ | マ | 棒 | 震 | ば | 目 | 小 | 僧 | 狗 |   |
| 44  | — | — | — | — | — | 二 | — | ○ | — | — | ○ |
| 34  | 二 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 78  | 三 | — | — | — | — | 二 | — | ○ | — | — | ○ |
| 37  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — | ○ | ○ | — |
| 33  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 70  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — | ○ | ○ | — |
| 148 | 三 | — | — | — | — | 二 | — | — | — | — | — |
| 81  | — | — | — | — | — | 二 | — | — | — | — | — |
| 67  | 二 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

小女 同 十二種

大男 同 十一種  
女 同 十種

更におげ、鬼、天狗、雷、地震、泥棒等がこはい動物として上げられてゐることに注意せねばならず、殊に兄サマがこはい動物となつてゐることも注目すべきことでせう。只一人だけではあるが。また男兒にはこはい動物のないといふ幼兒がゐるが、女兒には皆無であることも面白い。幼少な幼兒程、こはい動物の種類數に富むが、大きな幼兒では次第に減少する傾向があるし、男兒の方はこはい動物が多様であるが、女兒では集中してゐる傾向があるとも見られませう。總じて是等のこはい動物は實物をよく見たとか、知つてゐるとか、いふものでなく、多くは「お話」の中に出て來るものが多いやうな傾向もありませう。本當に獅子や虎がこはいかどうか。一寸動物園の獅子や虎を見ての恐怖心ではありますまい。狼や猿などは殆ど見たこともない位でせう。また鱈でも蛇でも恐怖を抱いた經驗が全くない位であります。それで本能的なものが、それともお嘶などでこはいといふことがしみこんだものか。

二

いやな動物厭惡すべき動物となると、幼兒によつて著しい變化がある、論より證據、次の表をよく御覽下るとよす。

| 動物 |    |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   |   |
|----|----|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|
| 蛇  | 虎  | 鼠 | 豚 | 猿 | 鹿 | 熊 | 狼 | 河 | 獅  | 豹 | 鱷 | 貓 |
| 子馬 |    |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   |   |
| 九  | 四  | 〇 | 一 | 二 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 二  | 三 | 〇 | 一 |
| 七  | 三  | 二 | 一 | 三 | 二 | 〇 | 〇 | 一 | 三  | 二 | 一 | 二 |
| 16 | 7  | 2 | 2 | 5 | 2 | 0 | 0 | 3 | 6  | 2 | 2 | 2 |
| 小  |    |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   |   |
| 四  | 六  | 〇 | 〇 | 一 | 〇 | 二 | 二 | 一 | 五  | 〇 | 〇 | 〇 |
| 二  | 四  | 四 | 四 | 二 | 一 | 三 | 三 | 二 | 〇  | 〇 | 一 | 〇 |
| 6  | 10 | 4 | 4 | 3 | 1 | 5 | 5 | 3 | 5  | 0 | 1 | 0 |
| 大女 |    |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   |   |
| 三  | 一  | 〇 | 〇 | 一 | 三 | 三 | 二 | 二 | 八  | 〇 | 一 | 〇 |
| 九  | 七  | 六 | 五 | 五 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三  | 二 | 二 | 二 |
| 22 | 17 | 6 | 6 | 8 | 3 | 5 | 5 | 6 | 11 | 2 | 3 | 2 |
| 合計 |    |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   |   |
| 三  | 一  | 〇 | 一 | 三 | 〇 | 二 | 二 | 二 | 八  | 〇 | 一 | 〇 |
| 九  | 七  | 六 | 五 | 五 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三  | 二 | 二 | 二 |
| 22 | 17 | 6 | 6 | 8 | 3 | 5 | 5 | 6 | 11 | 2 | 3 | 2 |
| 小  |    |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   |   |
| 三  | 一  | 〇 | 一 | 三 | 〇 | 二 | 二 | 二 | 八  | 〇 | 一 | 〇 |
| 九  | 七  | 六 | 五 | 五 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三  | 二 | 二 | 二 |
| 22 | 17 | 6 | 6 | 8 | 3 | 5 | 5 | 6 | 11 | 2 | 3 | 2 |
| 大  |    |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   |   |
| 三  | 一  | 〇 | 一 | 三 | 〇 | 二 | 二 | 二 | 八  | 〇 | 一 | 〇 |
| 九  | 七  | 六 | 五 | 五 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三  | 二 | 二 | 二 |
| 22 | 17 | 6 | 6 | 8 | 3 | 5 | 5 | 6 | 11 | 2 | 3 | 2 |

毛 蟻 龍 犬 牛 駱 狸 み 大 馬 針 蛙 狐 象 猪

、

虫 駝 ず 蛇 鼠

一 一 二 三 二 一 〇 〇 〇 一 〇 一 〇 一 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 一 一 一 一 一 一 〇

1 1 2 3 2 2 0 0 1 2 1 2 1 2 0

〇 〇 〇 〇 一 〇 〇 一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 一 一

〇 〇 〇 〇 一 〇 一 一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 一 二

0 0 0 0 2 0 1 2 0 0 0 0 0 0 2 3

三三

1 1 2 3 4 2 1 2 1 2 1 2 1 4 3

一 一 二 三 三 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 二 一

〇 〇 〇 〇 一 一 一 一 一 一 一 一 一 二 二

小  
女 男  
十五種 二十四種

いやな動物の種類数を上げると左表の如くなります。

| 幼児数 | 無 | が<br>い<br>骨 | 泥<br>棒 | でんでんむしの<br>つぶれたもの | 幽<br>霊 | あ<br>ば<br>け | う<br>じ | 鳶<br>鳥 | ブルドック | 山<br>羊 | 羊 |
|-----|---|-------------|--------|-------------------|--------|-------------|--------|--------|-------|--------|---|
| 43  | — | —           | —      | —                 | ○      | ○           | —      | —      | —     | —      | ○ |
| 34  | ○ | ○           | ○      | ○                 | ○      | ○           | ○      | ○      | ○     | ○      | ○ |
| 77  | 1 | 1           | 1      | 1                 | 0      | 0           | 1      | 1      | 1     | 1      | 0 |
| 31  | 三 | ○           | ○      | ○                 | —      | —           | ○      | ○      | ○     | ○      | — |
| 32  | ○ | ○           | ○      | ○                 | ○      | ○           | ○      | ○      | ○     | ○      | ○ |
| 63  | 3 | 0           | 0      | 0                 | 1      | 1           | 0      | 0      | 0     | 0      | 1 |
| 140 | 4 | 1           | 1      | 1                 | 1      | 1           | 1      | 1      | 1     | 1      | 0 |
| 74  | 四 | —           | —      | —                 | —      | —           | —      | —      | —     | —      | — |
| 66  | ○ | ○           | ○      | ○                 | ○      | ○           | ○      | ○      | ○     | ○      | ○ |



大  
男 十八種  
女 十五種

この場合に於ても男兒に多くの種類があるが女兒に少いことは女兒にとつていやな動物、こはい動物が一致してゐる傾向の大なることを示すものでありませう。男兒ではまぢくで幼少な者には一層その傾向の大なることを示してゐます。そしていやな動物の方は男女共にこはい動物よりも種類の多いことは餘程注意すべき點であります。こはい動物は實感を伴ふものが少いがいやな動物には幼兒が何かの機會に實感したものが多いやうであります。比較的幼兒に接近した事物が多いこと事實であります。しかし兩方共にお話と、家庭に於ける人々よりの影響があることに氣をつける必要がありませう。兎に角この調査は甚だ不完全であります。更に附加する機會のあることを期し茲に第一回の發表をいたす譯であります。

# あ　る　座　談　會

小　　石

新築校舎の掃除の行き届いた一室、大テーブルを圍んで二十人ほどの集ひ、白百合とピンクのカ・ネーションが夢のように香つてゐる。座談會である。時は十二月のはじめの或る日。

今日の宿主のN校長はおだやかな調子で、

「展覽會をご覧になりましたか」

この展覽會は區内の御大禮奉祝児童製作展覽會で、この座談の開かれる三日前から開會して、此日の四時までといふことになつてゐる。一同の見たといふ答を聞いてN校長は、

「あれに就ての御批評を伺ふのが今日の主な目的なのですが、その邊から御順に願ひませう。」

A「製作品に就て承りたい事がございますか、質問でもよろしうございますか」

N校長「どうぞ、質問も御意見も結構です」

A「では伺ひますがS園の毛糸を剪つて線畫の中をうめてあるあの畫の経過を伺はせて下さい」

B「年長の幼兒少數が線畫もバックも描きました、年少兒の剪た毛糸を使って線畫の中を年長の畫を描いた子達が中に糊をぬつて其上に毛糸をうめました、構圖は勿論幼兒です」

A「あの製作に携つた幼兒の數はどの位でございますか」

B「線畫をしたのが年長兒三名で毛糸を剪つたの

は多数です」

A 「ありがたいうございました、よくわかりました。」

C 「J園の實物大の果物は彩色も幼児がしたのですか」

J 「年少の組でしたから色は幼児ではありませぬ」

C 「幼児でないと仰言ると先生と存じますが、それを先生でなく年長兒に彩色させたらいかかなのでせうか」

J 「よい事を話して下さいました、さうすれば年長兒の果物観察も出来ますし、小さい人の仕事の手傳ひといふ意味からしても意義のあることと存じます、今度實行して見ませう」

D 「只今のお説は結構とは存じますが、たとへ年少であつても、結果はぶざいくでも、自分の仕事は自分で完成させる、完成させた責任を負ひ

了せたといふ目的到達の喜を味はるのは教育上大切な事ではないのでせうか、年長兒が製作の仕上げをして手際よい結果を残すよりも、まだらで、ぶざいくでも年少兒自身に終りまでさせたいように私は思ひます」

F 「目的といふ事も大切には違ひありませんが、彩色したとか出来上つたといふ事よりも、形を作つてゐる事、色を塗つてゐる事、作る事、塗る事、その道程を樂むので、幼兒の生活はそれではないのでせうか。」

G 「Dさんのお説もFさんのお考も兩方とも大切だと私は思ひます。しかしどちらか一つにのみ偏す事は考へものだと思ひます、ことに年少兒にとつてはFさんのお説が最も適切なものであり、年長兒にとつては時にはFさんの仰言る道をたどらせ、時にはDさんのお説のようになければなるまいと存じます、けれど私はこの外

にCさんのお説を相互的交渉といふ意味に於て、年長年少の區別によらず、或一つの仕事を二人以上のお互でする、たとへば甲が器を作れば乙がお菓子を作り丙がお盆を工夫すれば丁がお箸を作るといふようにして、自分一人では、よく出来ない仕事をお友達と一處に、それからそれへと發展させ、充實させて行く事は子供達にとつて愉快でしかも善い事ではないでせうか、かふいふ意味で協同製作は大層よいと思ひます」

W「協同製作といふお話が出ましたから一言所感をいさせて頂き度うございます」

校長「どうぞ。」

W「方々で協同製作といふ事を伺ひましたが、今度自分の所で爲て見てはじめて、協同製作のどんなに善いかといふ事を深く感じました、あのお菓子を作るのにもはじめはたゞお菓子屋だけを思つてゐましたのに、其中幼児の一人が、先

生お菓子屋さんには工場がありますよ、ぢや工場も作りませう、そして工場には煙突がたつてゐます、と、成人の思ひつかない事まで子供獨特の觀察でどん／＼計畫をして行きました、爲ない前に案じた事はさほどでなく、よい結果を得たので、これからは出来る丈協同製作をしようと思ひました」

「H園の人数のお室も協同製作ですか、何時程かかりましたか」

H「あれは女兒の協同製作です、一週間程かかりました、其間毎朝來るとすぐ出來かけの室をながめてゐます」

K「協同製作のお話が出ましたが、それは幼児の個人性を無視してはゐないでせうか、十人の幼兒に興味があつても一人の幼兒に響鳴がない時、そして其の一人が強い時、其一人を強いて十人の興味に引き入れる事は出來ず、強い其の

子の性格が他の十人も二十人も、協同作業を壊してしまふ事があります、無理に協同させるよりも其の子、其の子の性格に依て導く事が大切と思ひます。」

M 「幼児の個性と協同製作とは反対なものではないと思ひます、甲は甲の興味即ち甲の性格の傾向に従つた方面へ發展し、乙は乙の性格の傾向に従つた方面を擔當すればそれでこそ協同製作も、個性教育も充實して行くのではないでせうか」

K 「しかし事實私の處では少數ですが、其の子の爲に他の協同製作はいつも破られてしまひます」

M 「それは、其の少數の幼児がまだ群團生活をする時期になつてゐないのか、わがままなのかどちらかではないのでせうか」

K 「大層わがままで、家庭でも困つてゐるさうです」

O 「さういふ特殊な子は特殊な方法でなほす必要がありはしませんか」

K 「特殊な方法と申しますと？」

O 「たとへば、お友達と仲よく遊べない子は、一人で遊ぶなさいと云て一人きり室に入れて置いたりしたら」

K 「さうすれば家へ歸つてしまひます」

O 「勿論特殊な方法をとる事の爲には家庭の了解を得てよく打合せをしてからでないともありません、そして協同の愉快さその興味を何かの機會又は動機で味はせるように保姆が努力しなければなりません」

K 「お話はよくわかりました、けれど私の園では商家が多く、お母様達が教育に就ての理解がなくて困ります。」

N 校長 「家庭と學校との連絡は教育上の大きい問題です、目を改めて研究する事も可いと思ひま

す、今日は展覽會に就ても少し御意見を承りませう。」

S 「意見といふ大した事ではありませんが、大急ぎで一通りしか拜見出来なかつた者の、一寸の感想を申上げてみれば幼稚園製作として協同作業の多かつた事が、まことに結構だと思ひます、これは幼稚園に於て、もつと研究され、もつと發展し得るように思はれます、私の見誤りかもしれません、一つ遺憾に思つたのは、折角、幼稚園で個性充實協同發展と努力してゐるにも係らず、さういふ保育を受けた幼児が入學する小學校に於て、一年生の製作を拜見すると、すく／＼伸びた芽が缺で剪り落されてゐるような感じが致します。私共はもつと低學年の先生方と協力して、伸びた芽に葉も蕾も持たせるようにしなければならぬ、今の有様では一年生の、附屬時代に於ける、幼稚園生活があまりに無視

されてゐるように思ひます。此事に就ては第一私共も、小學校を理解しお互に共鳴しなくてはならないと思ひます—

N 校長「小學校との連絡は、之亦幼稚園教育上の大きい問題です、他日研究の參考として他にも何かお考があつたらお話し下さいまし」

宿主がお心づくしの暖いコホアの香がたゞよふ頃早や短日は傾いて點燈された。大河を行く船の汽笛が夕もやを破つてひびいた。小學校との連絡問題に就てはS氏と同感が多くて、他の感想は出なかつた。

序に記す、この展覽會に出品されたS園の唐紙へ描いた線畫はクレイヨン畫の表さない世界をさび／＼と發表してゐた。

なほ自然物に接する事のまれな且園、J園に巧な自然物利用の製作のあつたのは、保姆の先生方の絶えざる御努力と實に感謝に堪へなかつた。

# 金港幼稚園の此の頃

石野孝

新年も目出たう存じます。皆様には御壯健で幼児教育に御精進しますことをお慶び申上ます。私共の横濱金港幼稚園も皆々楽しく嬉しく越年いたしました。母園長石野ツヤ明治三十六年以來勤続いたしました當市老松幼稚園を辭して、父喜十郎氏と共に草の香高き岡野町の原に金港幼稚園を創設しましたのは大正五年のことでありましたが、もう十三年の月日は流れました。あの恐ろしかった大震災災の創痕も癒えて、市の急激なる膨張發展に園の周圍の原には小學校やら人家やらが建てられて、クローバーや蓼や嫁菜などの草地は殆んど見ることは出来なくなりました。設立者も古稀

を過ぐる一年、園長の還暦も近くなりました。しかし相變らず元氣で四人の保母達と共に、毎日園兒と愉快な日を送つて居ます。

今日此の頃の寒い風を切つて園兒たちが登園しますと、其の日の保育が始まります。九時近くみんなの揃つた頃、勢のよい聲で園歌を歌ひます。

□

海のむかふから お日様

出船入船 にぎわしい

われ等は港の 子どもたち

仲よしこよし つれだちて

たのしく遊ぶ このお庭

横濱金港幼稚園

三つ鏽の 此の徽章

一によい人 二に強く

三に賢くなれといふ

をしへのやうに 生ひたちて

みなもろ共に 進みませう

横濱金港幼稚園

本園の徽章は鏽三

つ組合せたもの

將來立派な港の市民となつて大横濱を背負ひたつ意氣が、まぎ／＼と偲ばれて頼もしい御座います。それから東南に向いた日あたりのよい園庭で、いろいろな遊びをいたします。乙女椿が咲き梅も

寫眞は園長や保母の笛や太鼓につれて節分のをどりをいたして居る所で御座います。そのお面は圖畫法に刷りまして幼児に作らします。

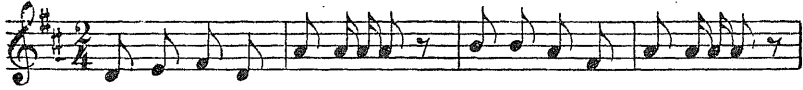


節分のをどり

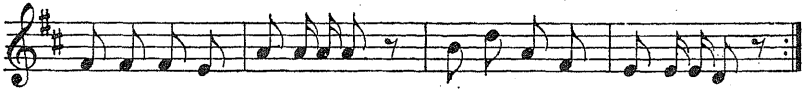


# 節分豆まき

石野ツヤ作歌



フク ハ ウ チ パ ラ パ ラ      オ ニ ハ ツ ト      パ ラ パ ラ  
 オ ト ウ サ ン モ      ニ コ ニ コ      オ カ ア サ ン モ      ニ コ ニ コ



オ ヘ ヤ テ パ ラ パ ラ      オ タ イ ド コ テ      パ ラ パ ラ  
 ホ ツ チ ャ ン モ      ニ コ ニ コ      オ ジ ョ ウ サ ン モ      ニ コ ニ コ



ワ      ラ      フ      カ      ド      ニ      ハ      フ      ク      ガ      ク      ル

蕾が大きくなりました。ペランダや砂場や鞆に  
 り臺や思ひ／＼に遊びながら、心からなる謠を口  
 ずさみます。手帳に書き留めて見ますと面白い童  
 謠集が出来ます。そろ／＼節分も近くなりますと、  
 ペランダや庭の莫塵の上で太鼓や笛の調子も愉快  
 に、いろいろなお面をつけて躍りつゞけます。そ  
 れを團長が歌にしたものを次に御紹介いたしま  
 す。

福は内バラバラ

鬼は外バラバラ

お部屋でバラバラ

お臺所でバラバラ

お父様もニコニコ

お母様もニコニコ

坊ちゃんもニコニコ

お嬢さんもニコニコ

突ふ門には福が来る、

# 自然物利用の雛祭に就て

膳 眞 規 子

幼稚園で雛祭を催します事の年毎に盛んになつて参りました事は、幼児教育上誠に欣幸の至りです。御座います。

昔は幼稚園での雛祭は餘り致しませんでした。故に私の勤めて居りました幼稚園では之れに對する設備等は少しも御座いませんでした。

過る明治三十年の春頃幼児に幾分春の氣分に打たれさせたさき考へより、保育室内塗板に櫻花の爛漫たる處を描きまして其下に、立雛を描きました處が、幼児達の喜びは非常な事で御座いました。私も又描き甲斐の有りました事を何となく愉快で御座いました。

翌日幼稚園に出勤致しました處昨日描きました塗板の下にある机の上に、人形が三個と、道具が揃へて御座いました、誰が持つて参りましたかを尋ねて見ますと、松さんと申す男の子は博多人形の兵隊さん、笑子さんは小さきお人形さんを、文子さんは伏見焼のお重箱を持つて來た事が分りました。此三人の子供の申しますには、幼稚園にお雛様が出来たので、昨夜は嬉しくて嬉しくて堪りませんで夜も度々目がさめて今朝早くから楽しんで幼稚園に來た事を、得意然と話し、又其他の子供達も同感者多く、此喜びは、女の子斗りではなく、男の子も同様に喜んで居ります。私は此話を幼児達

より承りました時は、何時も大人感斗りを持つて、幼児達の興味ある憧憬を無視して居た事が何んだか、幼児に對してすまぬ氣がいたしました。當日は終業後職員一同が一致協力して、俄細工に、自然物を利用して、お雛様を作り、又お菓子はその當時野菜類で作るお菓子の製法を習ひましたので、之れを幸ひと、夜分自宅で、さつま芋、牛房、にんじん、密柑の皮等を以て、雛菓子を多量に製造して翌日幼稚園に持參して、お雛様祭を催しました。當日は五段の壇を作り、自然物製の雛様や、自然物製の、お道具を揃へ、野菜製のお菓子を排べて、お雛祭を致しました。其野菜製のお菓子を、幼児達に摺み紙で、籠を作らせ、其中に入れて與へまして一同打ちより愉快に、茶話會を致しました。此時の幼児達の喜びは、實に大したもので、とてもとても、言葉にも筆にも形容は出来ません。室内は喜びの聲でなりも止まぬ程で御座いまし

た。斯の狀況は、全く負ふた子に教へられました。諺の如く、幼児達の動機によりまして、斯く催しを爲すに至りしもので、實に氣持よき催して御座いました。

爾來之れを動機として長き年月の間、趣味豊富簡單にして自然物利用の巧みなる表現を幼児より學び、自然物利用の雛祭を催して居りました。

幼児の家庭には随分數百金を投じて立派なる雛の所有者も御座いますが、幼稚園にて作りたる物は、幼児本位のもの多く、又材料は幼児の常に嗜好せる自然物で、殊に努力して採集せるものを利用して御座います事として、それはそれは幼児の腦裏には興味を以て歓迎せられて居ります。

又此催しを機會に、家庭の祖母様お母様お姉様方の來園有りまして、家庭の聯絡機會ともなり、此來觀者は皆此催しを珍らしく見て下さいます。又凡ての廢物利用により、幼児教育の上に、効果

ある玩具に轉用されたる事を非常に感心して下さいます。

又平素より懇情を蒙り居る市内又は、近くの幼稚園の先生方も、此開催を機會に必ず、遊來を請ひ、雛壇の前にて、胸襟を打ち開き、愉快に歡談會を催して居りました。

三月三日も雛祭を開備してよりは、毎日毎日隨分遠方より觀覽に多數の方の來園有り、爲めに、平素疎遠の方方に御面會が出来まして、催し甲斐の有る事を、嬉しく感じて居りました。

又雛や其他の品を作りますのにも、年々致して居りませう事として、造作なく出來るので御座います。毎日忙しい勤めの時間中の事として決して、之れに多數の時間を取らぬ様にして居りますが、毎年二月二十日より、二十八日迄、午後終業後點燈の頃迄従事する事にして居りました。女學校卒業早々保姆となられた、若き方々は、中々嶄新奇拔の作

品を造られます事は、何時も感服して居るので御座います。

次に雛并に道具造り方に付きまして、其概略を申し上げます。

雛の顔は凡て梅壇の實を利用致します。

雛の冠はゴム(ユウカリ樹)の實のヘタ、又はどん栗のヘタ利用。

衣服、四角形の摺み紙を三角形に折り使用す。

着せ付けは、十數種の折様により、變化出來得。

立雛の顔は、種々なる木の實其他を用ふ。

其種類を舉ぐれば、

珊瑚雛 元結雛 豆雛 木葉雛 貝殻雛 珠數

及珠雛 桐實雛 檜實雛 小石雛 猫柳雛 羽

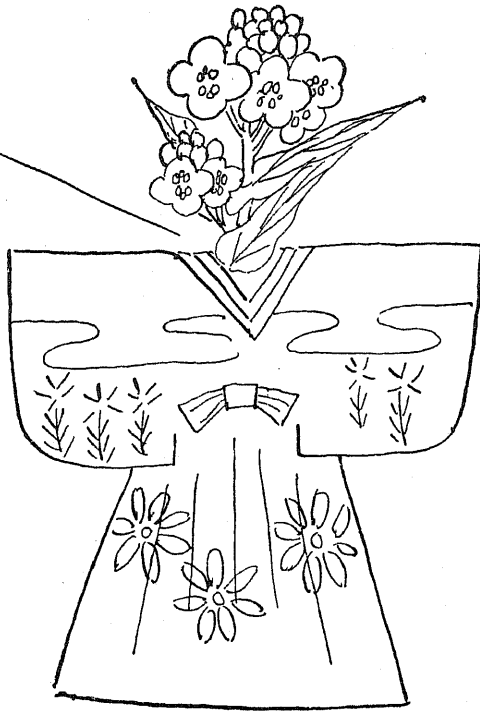
根雛 松の實雛 ドン栗雛 栗雛 金柑雛

又硝子瓶に水を入れ、生花をさして立雛とす。

此立雛の顔は、實物の花を使用す。

水仙花 椿花 梅花 菜の花 桃花 彼岸櫻

この中に硝子瓶を入れて  
生花を活ける



温室の花では、ゼラニウム チューリップ  
ヒヤシンス プリムラ マガレット 其他。  
お道具としては(自然物)摺み紙を以て作る)  
箆筒 長持 カバン トランク 自動車 鏡臺  
茶盈 蓄音器 琴 笛 火鉢 膳 茶碗 手拭  
掛 額 肩 團扇 三寶 蒲團 箒 塵取 洗  
面器 花瓶 軸 下駄 草履 櫛 簪 椅子  
長椅子 時計 毬 羽子板 羽根 太鼓 鼓  
机 ピアノ 風琴 机 舟 花輪 燭臺 俎  
庖刀 籠種々 屏風 靴 衛生 ラジオ 寫真  
機。  
右は大略にして、其巧みなる利用により、種々  
なる物品を作成す、其數枚擧に違あらざれば此處  
に擧筆す。  
以上の材料は、自然的、及び摺み紙、針金、繪具  
(彩色用)を使用するのみにて、他は僅かの費用を  
要せず、幼児に興味深く歓迎せらるる事は、購求  
せる品より數等の價値あるものなり。

# 三月の幼児生活

三八

東京府女師附屬幼稚園  
卜部たみ

## 三月の素材

○雛祭り

○地久節、春季皇靈祭、陸軍紀念日

○三月の景色、陽氣

春雨、かげらう、桃、かいどう、芽生

○彼岸

○戸外保育

○三月生れの誕生會

○進級の樂しみ

○學年末の集り（送別會）

○終業式

○春休み

幼二、三月の主な

| 週 | 一 第                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 二 第                                                                                                                                                                                                            | 三 第                                                                                                                                                                                                                                                                |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | <p>自由あそび(ハヒのつくこと)<br/>           家庭のお雛飾りの話保育室の自作のお雛様の道具づくりついでに入る<br/>           豆煎の入れもの作り<br/>           (手さげ箱)<br/>           談話(赤頭巾)―繪―お話あそび<br/>           唱歌(校歌其他の練習)<br/>           運動・遊戯</p>                                                                                                                   | <p>三月生れ誕生の方へ贈物作り<br/>           雛祭り案内ホスター作り、招待状(尋、二、及先生方へ)<br/>           作り及招待状くばり<br/>           唱歌(校歌、まつり、青い目の人形、人形を迎へる歌、お客様、めくら鬼、あられ、其他)<br/>           遊戯(練習)<br/>           お話あそび(赤づきん、鳥のやぎ、熊のおうち其他)</p> | <p>三月節句祭り<br/>           (三月生れ誕生會)<br/>           初一、二、尋一<br/>           尋一、二、各先生(お客様)<br/>           談話、唱歌、遊戯其他<br/>           特に本年はアメリカの友愛人形もかざつて観迎す<br/>           各家處より持よりの人形もかざる<br/>           各家處より持よりの人形もかざる<br/>           運動<br/>           お雛様の前で遊ぶ</p> |
| 2 | <p>自由遊び<br/>           (霜どけの道、雪降の後の寒さ等につき問答、兵隊ごっこ鬼ごっこ等盛)<br/>           小學校庭に於て久宮内親王の御事につきお話あり御寫眞を拜して一同おかなしみ申上ぐ<br/>           お雛様とお名残の集り、記念撮影(片附手傳)<br/>           自由あそび自由作のおひな様<br/>           其他をお土産として持歸らし</p>                                                                                                   | <p>魚つり遊びに入る<br/>           畫用紙に隨意に魚をかき切抜いて魚を作る口に小さい細い針金の輪をつける<br/>           (鯛、鯉、鯉たこ等)<br/>           ひご竹にて釣棹細針金で釣針を作る、室の中央に海を作り魚をはなし魚つりを初む<br/>           午後遊戯唱歌の練習會とす</p>                                   | <p>自由あそび<br/>           喜び又續きをす後男兒全部兵隊遊びに入る女兒遠足ごっこ(マント帽子バスケットを出がける仕度ならびあるく等)<br/>           談話(兵隊さんの話、陸軍紀念日の話(戦争の話)、新授遊戯(フランスの王様)<br/>           兵隊遊び等の練習其他兵隊自由畫<br/>           魚つり、ホ、マのつくことば呼びあげ</p>                                                              |
| 3 | <p>自由あそび<br/>           靖國神社の合同作をみて漸次に他のものを作つてならべていく<br/>           歌生の方との御別れに贈物をつくる織紙ぬひとり繪家其他<br/>           カード遊び(文字、色)メモのつくことば調査(文字、數觀念、觀察等)<br/>           唱歌(ひばりはうたひ)其他<br/>           自由遊び(ヤ、ユのつくことば)贈物其他手技のつき及展覽會<br/>           調査(文字、數觀念)觀察一方面<br/>           第一部(運動會遊戯練習會)<br/>           (保護者會)(數人づゝ)</p> | <p>自由遊び<br/>           (ヨ、ラことばつなぎ)<br/>           卒業證書授與式豫行(小學校と合同)<br/>           自由遊び<br/>           明日の集りの仕度製作つゞき<br/>           明日のプロگرام作り<br/>           (保護者會)</p>                                      | <p>自由遊び<br/>           (ヨ、ラことばつなぎ)<br/>           卒業證書授與式豫行(小學校と合同)<br/>           自由遊び<br/>           明日の集りの仕度製作つゞき<br/>           明日のプロگرام作り<br/>           (保護者會)</p>                                                                                          |
| 4 | <p>證書授與式<br/>           保育満了式</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                    |

| 第六                                                                                                                                  | 第五                                                                                                                                                       | 第四                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>地久◎祝賀式</p>                                                                                                                       | <p>自由遊び<br/>唱歌雪の子雪やこんこ其他<br/>火鉢の周りにあたり乍ら話<br/>問答、本をよみきかす自由に<br/>繪を書き初む<br/>一同車座になりその繪の話<br/>觀察幼稚園二階―寄宿舎二階<br/>―小學校二階―寄宿庭<br/>雪つり、雪うさぎ、雪だるま<br/>等雪あそび</p> | <p>自由あそび<br/>お雛段の前でまゝごと<br/>男兒の多くは外で兵隊ごっこ<br/>尋一、二年からの雛祭りおま<br/>ねきの體狀をよむ<br/>繪(お雛様)を主として<br/>(フ、へのくことば呼びあげ)<br/>觀察<br/>日、露、風、冬芽、雪、寒梅、種<br/>子<br/>花壇掃除、砂場等</p> |
| <p>自由遊び<br/>昨日のつじき(手投)<br/>後それをならべて靖國神社の<br/>境内をつくる木、馬、永屋等<br/>も書いて切抜いてたてる<br/>談話だんぐ、春になる話、一<br/>年になる話<br/>唱歌(ひばりはうたひ其他)<br/>遊戯</p> | <p>自由遊び<br/>昨日の記憶畫<br/>お社、庭園、銅像大砲、武器<br/>等の畫<br/>畫についてお話ししむ<br/>其他の觀察事項につき問答<br/>遊戯兵隊遊び、フランスの王<br/>様の練習其他<br/>唱歌(練習)(ミ、ムをつくと<br/>ば)</p>                  | <p>靖國神社行</p>                                                                                                                                                  |
| <p>終業式敎生告別式<br/>第一部お別れの集り<br/>(談話本よみ、唱、遊、お遊<br/>び)<br/>記念撮影<br/>整理帳手技製作其他をわたす</p>                                                   | <p>自由遊び(まゝごと、戦争ご<br/>っこ學校ごっこ其他)<br/>調査(文字、數觀念、其他)<br/>談話(一年生になるたのしみ<br/>に就て思ひ／＼の發表、保<br/>姆の話等)<br/>展覽會巡覽<br/>同上取片づけ、整理、<br/>唱歌、遊戯(復習)<br/>保護者會)</p>      | <p>自由あび<br/>展覽會<br/>會の準備<br/>學藝練習會<br/>第一部(一年幼兒)送別會<br/>幼一、二、尋一先生、敎生保<br/>護者<br/>合同會<br/>(保護者會)</p>                                                           |
|                                                                                                                                     |                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                               |



# 幼児に聞かせる話

一 保 姆

## 昔ばなし

昔おとの様のところへ染物の大層上手な染物屋さんがまゐりました。私はどんなめんどうないろでもお染めいたしますからどうぞお云ひ付け下さい」と申しました。するとおとの様はむづかしそうに染物をいろ／＼お考へになりまして、「それでは笛と太鼓の音いろを染め出してくれ」と仰しやいました。染物屋さんは一吋一寸こまりましたものゝ、始めにどんな面倒ないろでもお染めいたしますからと申上げたのですから、

「はいかしこまりました。」と御殿からおうちへ歸つてまゐりました。それからこの染物やさんは夜もろく／＼ねないで考へました。

いろ／＼考へたすゑ大きなお日様の下に槍を一本そへた模様を染めまして大よろこびで御殿へもつてまゐりました。おとの様は染物屋のもつてまゐりました染物を受取りになりましたと云んなに笛と太鼓の音いろを染め出しただらうと云ひつけたものゝなか／＼むづかしい事だとお考へになりながらその染物をおひろげになりました。それには大

きなち日様と槍とが染めてありました。おとの様は、

「これはお日様と槍ではないか、どうしてこれが太鼓と笛の音色であるか。」

とおきくになりました。染物やさんは、

「はいお日様と槍でひやりく〜でそれは笛の音いろでござります。」

「それでは太鼓の音は何とする。」

とおつしやいました。染物やさんは、

「はいお日様とやりで天つくく〜でそれは太鼓の音いろでござります。」

と申し上げました。

おとの様もこの惻好な染物やさんには感心なさいましたと澤山の御褒美を下さいました。

## 龜の子のはなし

ぼかく〜あたゝかい日に太郎さんは海邊で遊ん

で居ました。すると岩の下から黒い大きなものがのそり〜と出てきました、太郎さんは一寸びつくりしましたが、すぐあゝ龜の子だとわかると安心して、その龜の子がどこへはつてゆくか一生懸命に見てみました。すると又一匹又一匹又一匹又一匹と數へきれないほど澤山の龜の子がはひ出します。大きいのもあれば小さいのもあります、太郎さんは今までこんな澤山の龜の子を見たことがありませんので、うれしくつてうれしくつてたまりません、いつのまにか太郎さんは龜の子もしろい、龜の子もしろいとあどり出しました。一生懸命に太郎さんがあどり出してゐるうちに龜の子の足をふみました。

「あいたたあいたた」

と大きな聲を出しましたので、太郎さんはあゝこの龜の子はものが云へるのかとあどろいて、

「もし〜龜さん、私はこんなに澤山な龜の子を

見た事がない、おもしろくて／＼おどつてゐる  
うちにあなたの足をふんでごめんなさい。」  
とあやまりました、龜の子は太郎さんのおどりが  
あまりおもしろいので、だん／＼太郎さんに近よ  
つて太郎さんに足をふまれたのです。龜の子は、  
「わるいのは私ですよ、あなたのおどりが面白い  
のであまりそばへよつたんですもの。」  
と云ひました。

「さあ／＼私たちも太郎さんと一緒におどりませ  
う。」

澤山の龜の子はつき／＼とおどり出しました。

大勢の龜の子は大よろこびで手も足も出来るだ  
け澤山にのばしておどり出しました。

そのうちの一匹の龜の子は、あまりおどりすぎ  
てすつかりからだか龜の甲良から外へとび出して  
しまいました。太郎さんをはじめ外の龜の子たち  
はびつくりしました。甲良からとび出した龜もさ

ぞおどろいた事でせう。大急ぎでもとの甲良へ入  
らうと思つてさかしまに入つてしまいました。頭  
を尾の方へ入れてしまつたものですから、苦しく  
て／＼たまりません。頭の出るところがないので  
すもの、そばに見てゐた太郎さんや他の龜の子た  
ちはおどろいて、龜の尾をもつて後へひつぱり出  
しました。そして今度はちやんと甲良の後の方か  
ら上手に頭を出すことが出来ました。

# 雛まつり

土川五郎

一、今日は……左側下方にて拍手一回、頭を左に傾く  
嬉しい……右側下方にて拍手一回、頭を右に傾く

三月……「今日は」に同じ

三日……「嬉し」に同じ

桃や ……右食指を前方肩の高さに食指を立て、出す

櫻の ……左食指を出し右食指と對立せしむ

お花をいけて……両手の掌を上にして並べ頭を前に少しく下げ「いけて」にてそれを左右に開く

きれいに……両手を（掌を下にして）體前にまとめ更に左右に開く

かざ……左足一步左へ左手（掌下にして）左上に指先を前にしてあく、顔は左上に向く

つた……右足を左足の前を越えて左へ、右手を左手の左にて上にあく

# 雛まつり

梁田 貞作曲



1. ケフ ハ ウレシイ サン グワツ ミツ カ  
2. みんな なかよく あそんで せれば



モモヤ サクラノ ホハナヲ イケテ  
おひが おへやに あかるく さして



キレイニ カザツタ ヒナダンノ  
おはなも きれいに さきました



マヘニ ナランテ アソビマセウ  
おだいら さまも うれしさう

## 雛まつり

今日は嬉しい三月三日

桃や櫻のお花をいけて

きれいにかざつたひなだんの

前に並んであそびませう

みんな仲よく遊んでをれば

お日がお部屋にあかるくさして

お花もきれいに咲きました

お内裏様も嬉しさう

ひな……左足一步左へ左手を又左上に

だん……右足を左足の左へ運び右手を左手の上左へあぐ

の……左足一步左へ左手を左へあぐ

前に並んで……全生連手して右へ三步終りに左足をあげて跳ぶ

あそびま……左足を左に下ろし右足をあげて跳ぶ

しよ……右足を左足に揃へる

二、習……右左兩生向き合ひ各拍手一回の後右手と右手と打ち合ふ

仲よく……拍手一回左手と左手と打ち合ふ

遊んでをれば……兩生兩手を取り左より廻りて位置を取り換ふ

お日がお部屋に……兩手を兩側下方より體前にまとも更に兩手を上より左右に開き掌を左右に向は

しむ

あか……右足右へ右手を右上にあぐ

るく……右手を左下に流し左足を右足の右に左手を右上に運ぶ

さして……右足一步右へ右手を右上に左手を左下に開き、顔は左上を向く

お花も……左右生相對し拍手一回互に右足を斜左へ右手前左手後ろに開く

きれいに……拍手一回左足を出し左手前右手後ろに全く位置の交換をなして左右生が正しきもとの

位置に歸る（經よく遊んでをればにて左右に變りたり）

咲きました……全生正面に向き拍手二回兩手を左右に開く

お内裏……六人づゝ一組となり手を繋ぎ靜かに少しく兩手を上にあげ

様も……靜かに兩手を下ぐる時

中の二人は其まゝに立ち

其兩側の二人は中腰となり

其兩側（左右のはしの人）の二人は右又左膝を床にかゝむ

六人共手をつなぎ兩端のあいたる手は左若くは右下へ流す

嬉しさう……兩側の四人は頭を正面の方に傾け中の二人は背面に傾けて見合ふ

次に反對に傾けて見合ふ

# 幼稚園に於ける「觀察」(一)

四八

堀 七 藏

一

これから幼稚園保育に行はるべき「觀察」について毎月になつて私の考を述べたいと思ひます。昨年夏文部省主催の保育事項に關する講習に於て、「保育項目中の觀察」と題して私の考の一端を發表いたしました。何分時間が不足でありましたので、ホンの大要にすぎませんでしたから、茲には成るべく具體的な事項についての私の考を述べる積りであります。即ち觀察の實際についての意見を三月號から發表する積りではありますが、その前置として「觀察」についての大體論を述べねばなりません。私の眞精神を批判して頂くには一般論基として實際を考へて頂かねばならぬからであります。

さて「觀察」とはいふまでもなく、文字から考へても「觀ること」が重要な要件であります。次に觀たことについて「考察すること」。これも勿論重要であります。しかし觀察にも程度がありますので、大人の觀察、眞の觀察に於ては、或は「察」の字に力強いところもありますが、幼兒の觀察に於ては寧ろ



「観」の字に精神がこもつて居ります。實に觀察では観ることが最も重要なことであります。観ることのない觀察、それは觀察ではありません。觀察と稱するともそれは觀察ではありません。しかし観ることの行はれない「觀察」が甚だ多く行はれてゐるやうでありますが、これは私が茲に述べんとする觀察ではありません。また幼稚園令に於ける觀察も観ることを除外した意味のものでないことは勿論であります。

## 二

「観ること」も單に眼を働かすことだけではありません。單に視覺を働かして外界を知覺し認識することだけを「観る」といふのでありません。廣く凡ての感覺、器官を働かして外界の事物現象を知覺することを簡單に「観ること」といふのであります。觀察の觀は單に眼だけを働かすのでないことを注意して置かねばなりません。單に見るといふこともあり、また視るといふ字もあります。更に観るといふ字が特に使はれてゐるのでありますから、字義の詮穿をなすまでもなく、觀察では凡ての感覺器官成るべき方面から事物現象を知覺し認識することを意味せねばなりません。幼稚園令施行規則の「觀察」も等しく多くの感覺器官を働かして観ることを意味してゐるのであります。この「觀察」に既有的の經驗について問答するか繪畫を見せて既有的の觀念を再現させ、それについていろいろの話をすることも含んでゐるのではありません。たとへば「皆さんポートを見たことがありません。ポートの恰好はどんなです

か、ポルトはどんなところに浮びますか、ポルトは何に使ひますか」などといふやうな問答をして、ポルトの觀察であるといふやうなものは幼稚園令の「觀察」ではないと私は斷言いたします。また「皆さん、この繪を御覽なさい。これは萬國の子供さん達が會議してゐる所です。萬國といふのはどこでせう。知りませんか、それでは先生が教へて上げませう。イギリスがございませう、この子がイギリスの子供さんです。その次にゐるのが日本の子供さんです。それからイギリスの子供さんのもう一方の隣がアメリカのち子さん。アミリカも萬國の一ですよ。それからドイツ、フランス、それからロシヤもイタリヤもありませう。萬國といふのは澤山ありますよ、その中で一番エライのが「どこでせう」などと繪畫。しかも出鱈目の繪畫を見せて幼児には全く理解の出来ないことを説明することも「觀察」では毛頭ありません。一寸考へると繪を見せてゐるからといふ點もありますがそんな觀察は決して「觀察」ではありません。

## 三

觀察は觀ることを必要條件といたしますが、それは幼児が觀ることではありません。保姆が幼児の代りに觀ることをしてゐるのは觀察ではありません。幼稚園に於ける「觀察」は幼兒各自が觀ることであります。小學校に於ける理科で、兒童が觀ること以上に、幼稚園の觀察に於ては幼兒が觀ることを強く考へねばなりません。幼兒各自が各自の感覺器官を働かして外界の事物現象を知覺し認識してこそ眞の觀察が行はれたのであります。子供だから保姆や先生が代つて觀てやるのです」と誤解してはなりません。

幼児が觀察出來ないものまで觀察させることを幼稚園の「觀察」では決して要求するものではありません。幼児に出来る觀察をさせるのが所謂觀察でありますから保母や大人が幼児に代つて觀察するなどといふのは以ての外であります。こんな解かり切つた事ではあります。世には往々「幼児に觀察出來ないから私達が観てやるのです」といつた様な觀察が少くないやうに考へますから茲に明白に私は斷言するのであります。幼稚園に於ける觀察は幼児が行ふ知覺認識の作用であつて、保母が代つて行ふものではありません。保母が行ふ觀察はそれは保母の觀察で、幼児の觀察ではありません。従つてかたつむりを保母が観つゝかたつむりの話をしたり問答したりするのは似而非なる觀察であること勿論であります。

#### 四

幼児が各自の感覺器官を成るべく多方面に働かして知覺し認識すること、即ち觀察することによつて、幼児は事物や現象の觀念を得るのであります。換言すれば觀察は幼児が各自の感覺器官を成るべく多方面に働かして、事物や現象の觀念を得ることを目的としてゐるのであります。「觀察」の目的は幼児が感覺器官を成るべく多方面に働かして知覺し認識して外界の事物現象の正しい觀念を得させることとあります。決して「觀察」の時に、幼児に觀察させないで保母が觀察したり、また保母の既にもつてゐる觀念や概念について説話したり、また幼児が既にもつてゐる觀念につき問答することが保育項目としての「觀察」の目的ではありません。保育項目中に於ける「觀察」は幼児が觀察することによつて今まで持たな

かつた事物現象の觀念を得しめること、また既に持つてゐた觀念を一層正確にし明白になすことがその目的であります。世には今まで持つてゐなかつた觀念を繪畫を見せることによつて得られるとか、既に持つてゐた觀念が大人の説話によつて明白になり正確になるが如き考をもつ人がありますが、それは眞の觀念ではありませんし、眞に觀念が明白になるものではありません。幼兒の觀念は幼兒各自が事物現象を眞に觀察して眞に收得することも出来、明白にもなるのであります。勿論幼兒が觀察するときに觀察すべき材料を提供することは必要なことであります。幼兒の單獨なる觀察よりも保母や成人が幼兒の注意を集中させるため、觀察點について問答することも有効な手段に相違ありません。しかしそれは決して觀察の目的ではなく、方法なり手段なりであります。幼兒として元分觀察させるため、保母の行ふべき手段や方便と觀察の結果、明確となるべき幼兒の觀念を混同してはなりません。幼兒に行はしむべき觀察は必ず幼兒の感覺器官を働かしめることが最大要件であります。保母からの問や説明は幼兒の觀察を効果大ならしめる微弱なる方便にすぎません。この點に、保育項目の「觀察」は著しき誤解を持つてゐます。「觀察」の目的はいろ／＼の觀念を説話によつて得させることと誤解したり、事物現象に關する死んだいろ／＼の知識を得させることであるかと考へる人が少くないことを遺憾に思ふのであります。ただ空間の觀念がよく發達してゐない幼兒に、世界の話を説明したり、時間の觀念が明白でない幼兒に、強いて歴史的の事實を説明して、それで保育項目の「觀察」となすが如きことは愚も甚だしいといはね

ばなりませぬ。幼兒には「むかしの昔、まだその昔」といつただけで澤山であり、それでも現代と昔との區別が全くつかぬ。昨日のことも今日のやうに考へてゐる幼兒に對して、年代的な話をしてもそれは決して時代の觀念を養ふ方便にはなりません。五つ六つの數觀念が明白でない幼兒、大きな川といへばその村にある川位しか明白な觀念のない幼兒をつかまへて世界を説いてもわかるものではありません。單なる説話としてもそれを想像し類化するだけの基礎の觀念がありません。保育項目に於ける「觀察」は將來想像し類化し得る基礎となるべき卑近なる事物の觀念を幼兒の感覺器官を働かして得させるのが目的であります。

## 五

保育項目に於ける「觀察」は幼兒に卑近なる事物現象の觀念、成るべく明白なる觀念を得させることが目的であります。それと同時に幼兒の感覺器官の練習をなすことが目的であります。前者が實質的目的であれば、後者は形式的目的でありませう。將來外界の事物現象を知覺し認識する唯一の門戸、勿論幼兒の過去に於ても現在に於ても、唯一絶對の門戸であつた感覺器官の正常なる發達を促進することが「觀察」の形式的目的の重要な一であります。幼兒は各自の感覺器官を以て外界の事物現象を知覺しこそ眞の觀念が得られるのであります。これと同様に幼兒は各自の感覺器官を使用してこそ正常なる發達をなすことが出来るのであります。即ち幼兒は各自觀察することによりて眞に觀念が得られ、各自の

感覺器官の練磨が出来るものであります。それで保育項目中の「觀察」は觀念を得させると共に感觀器官の練磨發達を行はしめねばなりません。いろ／＼の事物現象を觀察させてそれ等の觀念を得せしめ併せて各方面の感覺器官の練磨を行はしめることが保育項目の「觀察」が目的とすべきものであります。尤も保育項目中の「觀察」によつて幼兒の生活を充實し擴張し、また自然に親しましめ自然を愛するやうに指導することも勿論必要であります。「觀察」によりて幼稚園令第一條の目的を達成することは誠に重要であります。

## 六

それで保育項目に於ける「觀察」は他の項目と切離して行はるべきものではありません。觀察は幼兒が事物現象の觀念を得る唯一の機會でありますから、觀察なくして觀念は得られません。従つて觀察は唱歌遊戯談話手技等の基礎をなすべきものであります。觀察によつて得た觀念を發表するのが談話であり、繪畫であり、手技であり、遊戲であり、唱歌であります。しかし觀察は繪畫するときにも、手技をやるときにも、また談話の際でも唱歌や遊戲に於ても、總括的にいへば幼兒の生活を通じて行はれてゐるのであります。また是等のいろ／＼の生活をなすことによつて、よく觀察が行はれるのでありますから、保育項目中の「觀察」だけが幼兒の觀察を得たり、感覺器官を練磨する唯一のものではありません。廣く觀察といふときの觀察と保育項目の「觀察」とは相當區別せねばなりません。

ん。保育項目の「観察」も他の保育項目を成るべく融合統一して行はるべきものであります。即ち「観察」に於て得たる観念を發表させることを努めると共に他の項目に於ても明白な観念を得しむることに努め、感覺器官の練磨を心掛くべきこと勿論であります。それで保育項目の「観察」に於てとるべき材料は幼兒の観念を豊富ならしめるやうに多くの事物現象を選択せねばなりません。單に自然物とか自然現象とかに限定することは面白くありませんし、材料を強ひて限定して少數のものをよく観察せしめることに力を盡すべきものではありません。幼兒のことでありますから同一のものを一時間も二時間も續けて観察するものでありません。また一度観察させたからもう澤山といつて數回観察させることをさけるのはよくありません。成るべく數回又は數十回観察させる態度が肝要であります。勿論毎回新しき態度異つた方面に注意を集中させて毎回新しき観察を行はしめねばなりません。

また観察の材料は幼兒の観察するに適當なるものであるべきことは當然であります。是等についてはあまり長くなりますから更に三月號に説明いたすことにいたしませう。

\*

\*

\*

\*

\*

# 雜 錄

五六

## ○奈良女子高等師範學校

### 保姆養成所生徒募集

一月十五日の官報に募集さる、出願期限は二月二十日、生徒数は若干名。詳細は出身學校若くは本校に照會のこと。

## ○東京女子高等師範學校

### 保育實習科生徒募集

一月廿五日の官報に募集あり、  
一、入學せしむべき生徒數 凡そ二十四名

## ○東京女子師範高校保育實習科の卒業生

今春三月卒業すべき見込の者左表のとほり。

一、出願期限 二月一日より三月十日まで

一、選抜試験の科目及其日時

一、科目 國語(解釋、作文、書取) 圖畫(自在畫) 音樂(唱歌)

一、日時 三月二十日

自午前八時十分 國語  
至同 九時四十分

自午前九時五十分 圖畫  
至同 十時四十分

自午前十時五十分 唱歌

一、口頭試問及身體検査の日時 三月二十日午後

一、選拔者氏名は三月二十一日午後三時發表

出願手續は本校に照會のこと。



| 出身學校別                   | 氏名    | 族籍    | 生年月日          | 備考 |
|-------------------------|-------|-------|---------------|----|
| 茨城縣立下館高等女學校             | 荒井喜久子 | 茨城縣   | 明治<br>四四、二、二七 |    |
| 東京府立第三高等女學校             | 梅澤千賀代 | 東京府   | 四三、三、三〇       |    |
| 東京府立第三高等女學校             | 大谷喜美  | 東京府、士 | 四三、九、五        |    |
| 關東廳立大連高等女學校             | 越智美代子 | 愛媛縣   | 四三、三、五        |    |
| 文華高等女學校                 | 小野寺京子 | 北海道   | 四四、三、一        |    |
| 東京女子高等師範學校<br>附屬高等女學校實科 | 大圃美禰  | 東京府   | 四五、二、二        |    |
| 栃木縣立足利高等女學校             | 久保田スイ | 群馬縣   | 四五、一、八        |    |
| 東京府立第五高等女學校             | 小島光子  | 東京府   | 四三、八、二        |    |
| 東京女子高等師範學校<br>附屬高等女學校實科 | 坂口つる  | 東京府   | 四四、一、九        |    |
| 潤徳高等女學校                 | 澁谷ミツ  | 東京府   | 四四、四、二六       |    |
| 福島縣立福島高等女學校             | 須子啓子  | 福島縣、士 | 四二、〇、二        |    |
| 東京府立第六高等女學校             | 辻雪江   | 東京府   | 四三、二、一六       |    |
| 東京府立第六高等女學校             | 坪内梅   | 東京府、士 | 四三、一、九        |    |

一少年東京女子高等師範學校囑託圖書課勤務

|                         |             |              |              |              |             |                         |                         |             |
|-------------------------|-------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------------------|-------------------------|-------------|
| 東京女子高等師範學校<br>附屬高等女學校實科 | 岩手縣立盛岡高等女學校 | 青森縣立八戸高等女學校  | 京城公立女子高等普通學校 | 武藏野女子學院高等女學校 | 大分縣立大分高等女學校 | 東京女子高等師範學校<br>附屬高等女學校實科 | 東京女子高等師範學校<br>附屬高等女學校實科 | 山縣縣立山形高等女學校 |
| 中堀元子                    | 糠塚アキ        | 沼館タカ         | 白眞鎮          | 平野弘子         | 藏野英子        | 二木綾子                    | 米山富子                    | 渡邊久子        |
| 岩手縣、士                   | 青森縣、士       | 朝鮮           | 千葉縣          | 石川縣          | 東京府         | 東京府                     | 東京府                     | 山形縣         |
| 四、一、三                   | 四、二、〇       | 三九、二、一七      | 三九、四、四       | 四四、一、三       | 四三、六、一四     | 四一、一〇、一                 | 四五、一、七                  | 四四、二、二      |
|                         |             | 一ヶ年小學校代用教員勤務 | 一ヶ年餘幼稚園保母    |              |             |                         |                         |             |

# 定規文注

# 告 稟

- 一、幼稚園及び小学校、家庭、育児、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歓迎いたします。
  - 一、寄稿は一行二十四字詰に記して下さい。但改行は一字下げること、また句讀點は一字あけること。
  - 一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新刊書、交換雜誌、入會手續、更に本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。
- 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内**
- ## 日本幼稚園協會
- 一、本誌購讀御希望の方は日本幼稚園協會に御加入下さい。居所、氏名を明記し會費前金にて東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會に御申下下さい。
  - 一、日本幼稚園協會會員外にて本誌御注文の方は凡て前金（郵税共）で願ひます。（郵券代用の場合には總て一割増）
  - 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
  - 一、本誌の代金を對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
  - 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
  - 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

### 告 廣

特等面一頁 金參拾圓 二面一頁 金貳拾圓  
 一等面一頁 金貳拾五圓 一頁以下御斷  
 神田區南甲賀町八品田奥松に御申下下さい。

### 發行所

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内  
**日本幼稚園協會**  
 振替口座東京一七二六六番

不 許 複 製  
 禁 轉 載

編輯兼發行所 堀 七 藏  
 東京府豊多摩郡戸塚町大字戸塚五七五  
 印刷者 猪 木 卓 二  
 東京市麹町區飯田町二丁目五十番地  
 印刷所 京華社印刷所

### 價 定

|        |        |      |
|--------|--------|------|
| 一ヶ月分一冊 | 金參拾五錢  | 送料貳錢 |
| 半ヶ月分六冊 | 金貳圓拾錢  | 送料共  |
| 一ヶ年拾貳冊 | 金四圓貳拾錢 | 送料共  |

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

昭和四年二月十二日印刷  
 昭和四年二月十五日發行

幼兒の教育 第二十九卷第二號

中國美術院會員  
東京美術學校教授

岡田三郎助先生・丹羽禮介先生共著

尋找  
求徒

# 應用略畫集

全一册 菊判洋綴  
彩色畫八葉  
作畫、一千有餘  
定價三圓八十錢  
送料金十八錢

スケッチと  
寫真とを應  
用して如實  
に表現した  
略畫の畫集

極めて頭腦の單純な兒童の繪畫教育には略畫が最も効果が多いのです。日常彼等の耳に觸れ、眼に映じた自然の風物も最も簡單明瞭に説明し、印象づけ、且つ表現せしむるには略畫に依るのが一番便宜です。本書は此目的に於て、先づ略畫の描法を極めて要領よく説明し、次に實例として國定教科書の各科に取材し、毛筆畫、ペン畫、單彩畫等各種の描法に於て、人體、風景、花鳥、獸魚等の略畫の作品千百餘を掲げ、其の作畫を如實に示す等、用意周到、懇切丁寧を極めた教育略畫集の寶庫であり、指導書の比較を如實に示す等、初等學校教育家並各家庭の必備を希ひます。

岡田三郎助 共著  
丹羽禮介

## 學校 家庭 圖畫描き方の基本と其の

菊判全一册  
ホブリン裝訂  
定價二圓五十錢  
送料十八錢

作畫の第一階梯として最も必要な事は基本型の取扱方である。繪畫の基本型は、一、圓型、二、三角型、三、四角型の三種であつて、之等の配置、交錯に基いて諸種の物體が如何に簡單に描き出されるかを兒童に會得させれば作畫の興趣を喚起し、觀察力と創造力を助長し完全に圖畫教育の効果を擧げ得、初等教育圖畫擔任の先生並各家庭の御必備御使用を希ふ。

帝國美術院會員  
東京美術學校教授  
岡田三郎助 共著  
丹羽禮助 著

六學校  
版家庭

## クレヨン畫集

菊判全一册 洋綴  
定價三圓八十錢  
送料十八錢  
一本の線より順序を経て畫に成る迄即ち素描の過程を懇切丁寧に實例に於て説明し、且つ製作家たり得。

學校教諭兼訓導  
主任 井曹一 著

五學校  
版家庭

## 應用圖案畫集

菊判全一册 洋綴  
定價三圓八十錢  
送料十八錢  
勿論ホスター、表紙、裝幀、染物、編物等克く其の應用の範圍頗る廣汎にて圖畫教育は其の意義を會得し、且つ製作家たり得。

新學習  
刊中心

## 手工學習指導

菊判一冊 洋綴  
定價一圓八十錢  
送料十八錢  
規範から脱して、機械的、他律的の模倣製作の藝術的、科學的製作を爲さしめ得る。

發行所 東京市牛町九丁目 中區 文館書店 電話 東京三三三八番 電話 東京二二四八番 電話 東京五七二番

廣島高等師範學校教授  
文學博士  
久保良英  
先生新著

# 兒童研究所紀要 卷十

大判洋裝全一冊  
定價金圓三百二十頁  
定價金圓三十五錢  
定價金圓八錢

教育的に先進國たる歐米諸國に於ては、既に將來國家の構成に重要な位置を占むべき兒童を心理的、生理學的に研究して純粋なる學理的立場から益々其効果を認めんと企て右施設に巨額の費用を擲つて惜まざる今日獨り我邦に、該機關の絶無なるを概し、久保博士等好むるが私財を投じて設立せられたる本研究所の貴重なる研究の發見は、恒に現代教育家として學界に推獎せらるる

## 次目内容卷一十

- 辨別力の検査成績
- 學科に對する態度と學業成績との關係
- 幼少兒童の精神發育綜合的研究
- 一般智能の恒常性に就て
- 兒童の人物畫に就ての觀察
- 本邦兒童に試みたる作業検査法
- 描畫による幼兒の智能測定
- 智能指數の分配
- 榮養不良兒に榮養補給を行ひたる結果成績
- 榮養指數に基く調査統計
- 一幼兒の生後二ケ年間の行動

久保良英 醫學博士  
青木誠四郎 醫學博士  
和田富英 醫學博士  
久保良英 醫學博士  
三田啓子 醫學博士  
岩岡園子 醫學博士  
成富辰子 醫學博士  
岩田艷子 醫學博士  
久保良英 醫學博士  
廣島尾長小學校  
松田喜美  
久保良英

# 兒童研究所紀要

- 1 洋綴・背皮・紙數一千百餘頁 定價九圓五拾錢送料五拾四錢
- 2 洋綴・背皮・紙數一千百餘頁 定價九圓五拾錢送料五拾四錢
- 3 洋綴・背皮・紙數一千百餘頁 定價九圓五拾錢送料五拾四錢
- 4 洋綴・背皮・紙數一千百餘頁 定價九圓五拾錢送料五拾四錢
- 5 洋綴・背皮・紙數一千百餘頁 定價九圓五拾錢送料五拾四錢
- 6 洋綴・背皮・紙數一千百餘頁 定價九圓五拾錢送料五拾四錢
- 7 洋綴・背皮・紙數一千百餘頁 定價九圓五拾錢送料五拾四錢
- 8 洋綴・背皮・紙數一千百餘頁 定價九圓五拾錢送料五拾四錢
- 9 洋綴・背皮・紙數一千百餘頁 定價九圓五拾錢送料五拾四錢
- 10 合輯 洋綴背皮天金紙數一千二百餘頁 定價拾圓五拾錢送料五拾四錢

## 智能查定用具

## 團體的智能検査用紙

BA式 一組參圓送料拾八錢  
大判全二冊 定價各冊參錢  
本用紙は久保先生の考案になる兒童智能検査用紙團體的用具  
智能の查定が手軽に出来る。兒童研究所紀要の實際的研究唯一の用具。

發行所 東京市牛車町九番地 中區文館書店 電話 替牛 東三 京三 三三 八三 四二 七二 番

東京市神田區一橋通町(帝國教育會館内)

株式會社フレールベル館

電話九段 三六三三七番  
振替東京 一三六四八番  
一九六四〇番



谷幼稚園にて

御豫算の残りをどうお使いですか

次の様な品は如何でせう

- |            |          |                         |
|------------|----------|-------------------------|
| ○梓 の ぼ り   |          | ¥ 130.00                |
| ○ヒル氏積木     | 全部揃      | 一組 ¥ 135.00             |
|            |          | 半組 ¥ 65.00              |
|            |          | $\frac{1}{4}$ 組 ¥ 35.00 |
|            |          | 柱金物共 ¥ 20.00            |
| ○メリーゴーラウンド |          | ¥ 35.00                 |
| ○安全ブランコ    | (鐵製) 6人乗 | ¥ 35.00                 |
| ○遊 動 橋     | (竹) 2人乗  | ¥ 130.00                |

—(其他弊社カタログ御参照下さい)—